

S Cは20世紀の流通の最強業態から「21世紀の最適業態」へと変化しています。また、変化することにより、S Cが21世紀前半も流通業界の王者として君臨することができます。このようなS Cを次世代型S Cと言います。従来型のS Cは20世紀の大量消費社会と20世紀の最高の新技術の1つから生まれた車社会によって確立された業態です。それに対して21世紀型の次世代型S Cは、次のような概念設計により構築されます(詳細は「流通とS C・私の視点1303」参照)。

次世代型S Cの成立の背景は「ポストモダン消費」(モノを買い、消費し、所有し、使用することが幸せと感じる買物の学習経験の連続性が終焉し、モノ離れ時代の消費)と、モダン消費を可能にした「世帯可処分所得35,000ドル以上の所得者層の出現」の2つです。

さらに、次世代型S Cの切り口の1つ目は「20世紀へのアンチテーゼの消費行動」(自然環境と地域生活環境に配慮した消費行動と人間関係と安心安全に配慮した消費行動)、2つ目は「21世紀に飛躍的に発展する新技術消費行動」(ITによるユビキタス技術を活用した消費行動とバイオテクノロジーを活用した消費行動)、3つ目は「新ライフスタイルから創出された消費行動」(人口動態を組み込んだ消費行動と消費構造の変化を組み込んだ消費行動)です。

この中で21世紀の新技術を活用した消費行動の中に「バイオテクノロジーを活用した消費構造」があり、その中に「バイオミミクリ」(Biomimicry=生物模倣)があります。

バイオテクノロジーとは生物や生命や生体を研究し、それを人間社会に応用・適用させる技術ですが、その中の1つに、「バイオミミクリ」があります。これは自然界や生物の仕組みに学び、そのデザインやプロセスを真似る(あるいはインスピレーションを得る)という視点で技術開発を行い、社会の問題解決と環境負担低減を実現しようとするコンセプトから成り立っています。このバイオミミクリは、アメリカの研究者・コンサルタントである「ジャンニ・ベニユス氏」が1997年に出版した「バイオミミクリ」で提唱した概念で、近年、学問領域として確立も図られ、実社会への適用も進んでいます。

バイオミミクリは「生体工学(Bionics)」(生物の持つ機能や構造を解析し、それを人工的に再現して利用する学問)や「生態模倣技術(Biomimetics)」(生物の持つ特性を真似て応用する技術)に近い概念ですが、より環境負荷低減、持続可能性実現に重点が置かれています。ベニユス氏はこのコンセプトの提唱と適用により、生物学に基づいた最先的なビジネスの土台を作り上げた功績が認められ、国連環境計画(UNEP)「2009年地球大賞」を受賞しています。

私は「0から1の発想ノウハウ」(現在に存在しないものを作り出す発想と実現ノウハウ)を創出するための第1は「歴史」(例えば、現在及び過去の事例研究)、第2は「異なる分野の研究成果の精査」(例えば、流通の課題解決のために、流通より歴史のある経済学を調べる)、第3は「自然現象のメカニズムの解明」(例えば、ニュートンの万有引力の法則のハフモデルやライリーの法則への適用理論)が必要と述べています(六車流：流通理論)。

この第3の「自然現象のメカニズムの解明」には、ベニユス氏は3つの模倣の段階があると述べています。

- ①第1は「生き物や自然の構造を模倣」すること
- ②第2は「生き物や自然の製造過程を模倣」すること
- ③第3は「生き物や自然のシステムを模倣」すること

私のS Cや流通の理論の中に、バイオミミクリ志向の発想がいくつかあります。

①ライオン家族と流通の王者としてのS C理論 ②孔雀の雄の優位性の変化と業態の定番化 ③宇宙の巨大惑星の2.5の成立と1つのマーケットの2.5企業・S Cの成立理論 ④ダーウィンの進化論と流通業態の時流対応理論 ⑤擬態動物の真似をするにもノウハウが必要理論…等があります。

まさに自然は36億年間の知恵と技術を蓄積し持っています。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六車秀之